

## ■にいがた命のつながりプラン 数値目標の評価と課題

評価の記号について ○:目標に達成した。 △:現状を上回ったものの目標に及ばなかった。 ×:現状に達しなかった。

Ⅰ 在来の動植物の生息・生育環境の保全・再生							主な項目の評価と課題
ア 新潟市の在来の動植物を守ります							【評価】 ・佐潟で活動するボランティア解説員の人数が目標を上回り、佐潟では環境保全にかかる人材の育成がすすんでいる。 ・冬期湛水水田での管理実施面積が目標と大きく離れているのは、水源の確保などの国による基準が厳しくなったことによるが、本市では毎年冬になるとハクチョウ類、ガン類が水田を餌場に利用しており、日本海特有の気候などで冬水田んぼと同様の状態が維持されている。  【課題】 ・毎年恒例である市民探鳥会への参加人数が減少傾向にあり、市民が野鳥を通して身近に自然に触れ合う場として、効果的なPR方法などを検討する必要がある。 ・在来動植物の生息・生育環境を保全するために、外来種への対策が具体的に求められている。
No	事業名	指標名	現状	目標(H26年度)	実績(H26年度)	評価	
1	市民探鳥会	市民探鳥会参加人数	221人(H22年度)	300人	109人	×	
2	佐潟ボランティア解説員制度	佐潟ボランティア解説員活動人数	127人(H22年度)	150人	205人	○	
イ 動植物の生息・生育環境を守ります							
No	事業名	指標名	現状	目標(H26年度)	実績	評価	
3	新津川を中心とした秋葉区の魅力発信事業	除草・クリーン作戦及び、ウォーク参加者数	353人(H23年度)	360人	316人(H25年度)	×	
4	環境と人にやさしい農業支援事業	5割以上の減農薬減化学肥料栽培の面積	6,306ha(H22年度)	8,100ha	7,163ha(H26年度)	△	
5	美しい農村づくり事業	モデル地区数	3地区(H23年度)	6地区	6地区(H26年度)	○	
6	環境保全型農業直接支払交付金事業	冬期湛水(冬水田んぼ)管理実施面積	315ha(H22年度)	2,100ha	11ha(H26年度)	×	
7	公園緑地整備事業	市民一人当たり公園面積	11.0㎡/人(H22年度)	12.8㎡/人	11.85㎡/人(H26年度)	△	
ウ 動植物の生息・生育情報を収集・蓄積します							
No	事業名	指標名	現状	目標(H26年度)	実績(H26年度)	評価	
8	里山生きもの調査	生きもの調査参加人数(角田山)	未実施(H23年度)	20人/年	0人/年	×	
9	佐潟等学術研究奨励補助事業※ <sup>1</sup>	補助金交付人数	2人/年(H23年度)	5人/年	2件/年※ <sup>1</sup>	△	
Ⅱ 自然環境の持続可能な利用の推進							主な項目の評価と課題
ア 生物多様性の保全に配慮した暮らしづくりを進めます							【評価】 ・廃食用油のバイオディーゼル燃料(BDF)活用化は目標に及ばなかったが、飼料や燃料化などBDF以外での活用がすすんでいる。 ・園芸相談に関しては、インターネットの普及により簡易なものは自宅でも検索できるようになったが、本市特有の気候や土壌条件など、相談者個々に具体的な対応を行うことで、ニーズが高まっている。  【課題】 ・児童・生徒数の減少とともに、学習指導要領が改訂され、総合学習に係る時間の減少などもあり自然環境施設への来校数が伸び悩んでいるが、受け入れ先の質の向上も求められている。 ・里潟をはじめ、本市の豊かな自然環境を資源とする取組みが各地域で進められているが、持続可能に向けた共通のルールを定める必要がある。
No	事業名	指標名	現状	目標(H26年度)	実績(H26年度)	評価	
10	地産地消推進事業	地産地消推進の店認定数	小売店74、飲食店181(H22年度)	小売店90、飲食店120	小売店69、飲食店153	×	
11	バイオディーゼル燃料(BDF)の活用	廃食用油の燃料化	67,000ℓ(H21年度)	70,000ℓ	36,000ℓ	×	
12	汚泥の再資源化	下水汚泥リサイクル率	100%(H22年度)	100%	100%	○	
	【再掲】市民探鳥会	市民探鳥会参加人数	221人(H22年度)	300人	109人	×	
	【再掲】佐潟ボランティア解説員制度	佐潟ボランティア解説員活動人数	127人(H22年度)	150人	205人	○	
13	園芸相談	相談件数	6,614件(H22年度)	10,000件	7,198件	△	
14	ビュー福島潟総合学習受け入れ	来校件数	71校(H22年度)	150校	93校	△	
15	都市型グリーン・ツーリズム推進事業	「食と農の学校」参加者数	81人(H22年度)	100人	123人	○	

※<sup>1</sup> 平成26年度から事業名称が変更となり、指標名も人数ではなく件数となっています。

■にいがた命のつながりプラン 数値目標の評価と課題

評価の記号について ○:目標に達成した。 △:現状を上回ったものの目標に及ばなかった。 ×:現状に達しなかった。

Ⅲ 人材育成・協働の推進							主な項目の評価と課題
ア 生物多様性保全の担い手の育成を図ります							【評価】 ・環境副読本の配布数減少は、少子化に伴う小中学校の生徒数の減少によるものであるが、現状の年と同様に、対象学年の児童・生徒全員に配布を行っている。地域学関連事業の参加者や、公民館での環境教育事業の参加者数は現状より伸びており、環境学習への機会の充実が図られている。  【課題】 ・佐潟水鳥・湿地センターや水の公園福島潟などの来館、来園者数が現状を下回る結果となり、多くの市民が自然環境に関心を持ってもらえるよう、気軽に足を運ぶ機会を提供する働きかけが必要。 ・環境フェアへの参加人数やオニバス現地案内など平成26年度は天候の悪化により前年を大きく下回る結果となり、天候にあまり影響されないイベント実施の方法など、工夫も検討が必要 ・環境に関する取組みを行っている団体など、これまで熱心に活動してきた方々の高齢化がすすみ、若手の人材育成が求められている。
No	事業名	指標名	現状	目標(H26年度)	実績(H26年度)	評価	
16	佐潟水鳥・湿地センターの活動	年間来館者数	70,044人(H22年度)	90,000人	69,858人	×	
17	水の公園福島潟の活動	年間来園者数	165,000人(H22年度)	187,500人	155,900人	×	
18	オニバス現地案内(福島潟)	案内参加者数	1,918人(H22年度)	2,500人	821人	×	
19	福島潟自然文化基金	寄付金額	2,021千円(H22年度)	4,000千円	1,974千円	×	
20	環境副読本を用いた環境学習の推進	環境副読本で学習した児童・生徒数	17,000人(H22年度)	17,000人	15,320人	×	
21	こどもエコ調査の実施	こどもエコ調査の参加校数	72校(H22年度)	50校	事業終了	—	
22	みんなの地球環境図面コンクールの開催	地球環境図画コンクールの応募数	180点(H22年度)	200点	事業終了	—	
23	こどもエコクラブの推進	こどもエコクラブの会員数	290人(H22年度)	400人	249人	×	
24	環境学習の充実	学校版環境ISO校数	0校(H23年度)	40校	40校	○	
25	環境教育の推進	公民館での環境教育事業の参加者数	788人(H22年度)	900人	850人	△	
26	ふるさとにいがた体験学習推進事業	活用校割合	94%(H23年度)	100%	93%	×	
27	にいがた市民大学開設事業	受講者数	420人(H23年度)	500人	414人	×	
28	地域学関連事業	参加者数	3,193人(H22年度)	5,000人	6,994人	○	
29	新潟水俣病の理解促進	市の職員、新採用教員を対象とした新潟水俣病研修会の実施回数	4回(H23年度)	4回	4回	○	
30	にいがた市民環境会議の活動支援	にいがた市民環境会議会員数	37団体(H22年度)	50団体	33団体	×	
イ 市民参加・協働を進めます							
No	事業名	指標名	現状	目標(H26年度)	実績(H26年度)	評価	
31	環境フェアの開催	環境フェア参加人数	27,468人(H22年度)	30,000人	17,208人	×	
	【再掲】にいがた市民環境会議の活動支援	にいがた市民環境会議会員数	37団体(H22年度)	50団体	33団体	×	